

朝の礼拝

聖書 マタイによる福音書20章1-15節 (新約聖書38頁)

「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。主人は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と尋ねると、彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。それで、受け取ると、主人に不平を言った。『最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにするとは。』主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。』このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」

ぶどう園で働く

イエスの時代、古代ローマ帝国は全盛期でしたが広場には失業者があふれていました。特に貧しい女性、子ども、老人、病人、障害者、その家族にその現実が襲いました。聖書には「（イエスは）群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた」（マタイ9章36節）と記されています。

そこでイエスは「ぶどう園の労働者」のたとえを話されたのです。ぶどう園の主人は神様、広場で雇われた労働者は失業者たち、広場は失業者のあふれる社会です。そしてぶどう園は天の国、神様の愛が広がる世界をたとえています。失業者が夜明け前から夕方五時まで雇われたというのは当時の社会の悲惨さを物語っているのです。

最後一時間しか働かなかった者にも一デナリオン、当時の一日分の賃金、つまり一日の生活費が渡されたというのは、夜明け前から働いていた人にとっては許しがたいことです。しかし主人のこの気前のよそにこそ、社会で必要とされない、働きのない人たちへの神様の深い憐れみがあらわされています。

そしてイエスは「収穫は多いが、働き手が少ない」（マタイ9章37節）とも言っています。ぶどう園の収穫とは失業者が共に働き、励まし、愛し合うことです。日々の必要な糧が必要な人へと行き渡ることです。神様の愛が実現することです。イエスはこのたとえを聴く者にも、ぶどう園で共に働くように招いています。

（しばらく黙祷しましょう）

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、励まされる主よ。あなたはすべての人が今日一日に必要なものが与えられるようにと願っておられます。どうか私たちが互いに助け合い、神様の愛を実現し、共に感謝できますようにお導き下さい。また大雨による土砂崩れによって被災された方々への援助、安全な生活が与えられますようにお祈りします。今日一日もすべてをあなたに委ね、安全で健康な学校生活を守り、よき学びの時をお与えください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン